

インドネシアにおける日本語

教育の諸問題

ーインドネシア教育大学の事例を中心にしてー

2010年3月20日（土）

At 大阪大学箕面キャンパス日本語日本文化センター

アフマッド・ダヒディ

Ahmad Dahidi

(INDONESIA UNIVERSITY OF EDUCATION)

はじめに

- 大阪大学フォーラム**2009** （貴重な機会、光栄に思う）
- 今回：「インドネシアにおける日本語教育の諸問題
ーインドネシア教育大学の事例を中心にしてー」のタイトル
- 時間があれば：①日本語を勉強しはじめた時、
②日本に留学したときの体験

インドネシアにおける日本語教育の盛んな地域：

西部ジャワのバンドン、東部ジャワのスラバヤ、
バリ、北スラウェシのメナド

インドネシアにおける日本語学習者の学習動機

1. 日本の文化に関する知識を得るため
2. 日本に留学するため
3. 将来の就職のため

インドネシア教育大学の 日本語学習者の学習動機

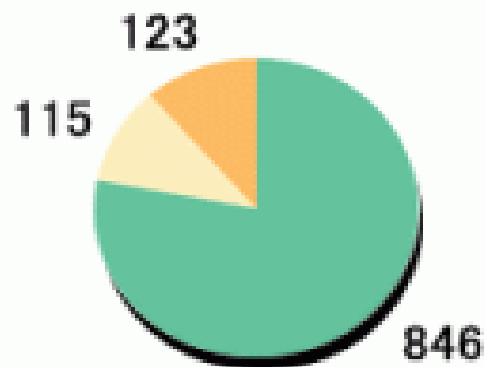
1. 日本語教師志望
2. 日系企業への就職希望 (通訳、翻訳)

インドネシアにおける日本語教育 の事情

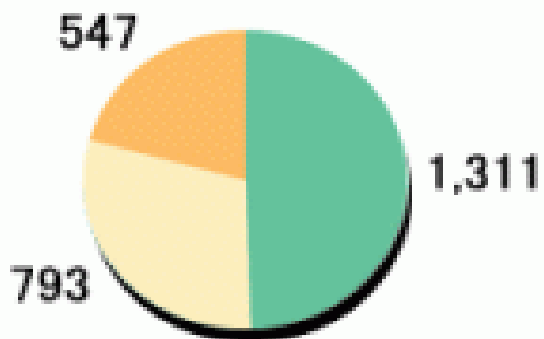
- 国際交流基金 (2006) によれば、現在、インドネシアにおける日本語教育に携わる高等学校や大学などが全国で1084校。その内、123校は高等教育。
- ほとんどの日本語の学習者は高校生 (約244,304名)。

インドネシアにおける日本語教育に携わる高等学校や大学の数
(国際交流基金「2006年海外日本語教育機関調査結果」より)

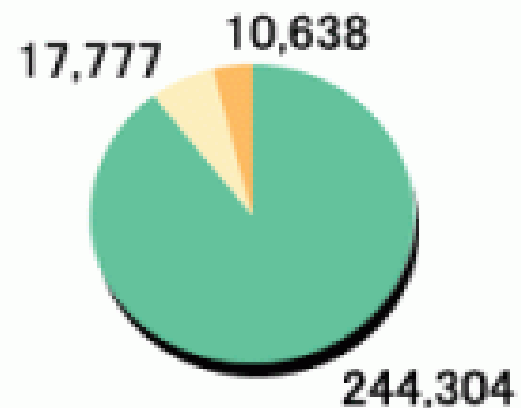
■機関数



■教師数



■学習者数



■ 初・中等教育

■ 高等教育

■ 学校教育以外

大学での日本語教育の歴史

- ①日本軍政期の日本語教育および②インドネシア独立後の日本語教育の二つの流れ。
- 本軍政期の日本語教育：高等教育機関の学問分野は、理工学系に限られ、日本語が大学で教えられるということとはなかった。当時の日本語教育では、生徒たちは日本語で書かれた学校新聞や雑誌などを読み、理解することができよう。
- インドネシア独立後の日本語教育の目標は特に日本語を通して日本の優れた点を学び、インドネシアの発展に寄与する人材を育成する。
- その後、日本文学と文化や観光関係の日本語に重点

インドネシアの大学設立の目的

- 研究
- 教育（理論とその実践：教育実習：約4ヶ月；前期か後期）
- 社会奉仕（期間：6ヶ月；前期か後期）

日本語教育学科のカリキュラム

1. 一般科目、教育と関連のある科目、必修科目、選択科目、卒業論文、合計156単位。
2. その狙い：日本語能力試験2級；現実的には平均すると2級と3級の間
3. 卒業後の主な進路は一般企業の日本語教師や翻訳者や高等学校の教師.

わが大学の学生の日本語の問題

- 教授法の問題（インドネシア人の講師が親切に日本語を教えすぎるため、その結果、学生は「受身的な姿勢」、「自分のアイディアを出すことがあまりない、自立的に勉強しようとする意欲があまり出てこない。」。ただし、「インドネシアの学生は発表のようなパフォーマンスの能力は高い。」）。
- 母語干渉（「聴解力」と「漢字の能力」「やりもらい表現」、「受身形」、「使役形」、希望を表す「タイ」などの誤用が多い。

過去三年間の日本語教育学科

卒業生の進路

No.	就職類	2007年 (47 名)	2008年 (73 名)	2009年 (78 名)
1	高等学校の日本語の教師	1 2	2 1	1 5
2	大学の日本語の教師	5	8	1 3
3	民間学校の日本語教師	8	1 1	4
4	日本合弁会社	1 3	1 5	2 0
5	学校以外政府の教育機関	3	3	0
6	その他	3	2	0
7	不明	3	1 3	2 6
	合計	4 7	7 3	7 8

国際交流基金の日本語の 専門家の任務

- 授業の担当
- 勉強会
- 学科会議
- コンサルティング業務
- インドネシア日本語教育学会西ジャワ支部の活動の
支援

オマケ

- (時間があれば)
- 始めて日本語を勉強した時
- 日本に留学したときの体験

個人的な経験から

- 日本語を勉強しはじめたのは**1977年**
- 知っている日本語は「ホンダ」や「ヤマハ」「味の素」
- カナ文字の勉強（自分なりに工夫）：各文字を何回も写し、部屋の壁やドアの後ろ、部屋の天井、たまにはトイレのドアに貼ること。）
- 「日本語の先生になりたい、日本へ行きたい」

広島大学教育学部

- 大変意義のある体験

銭湯で習う日本語 (1)

- 「男」と書いてあるドア
- 「よし、恥ずかしいと言っても、男同士だ」
- 番台のおばさんと目が会った
- 風呂場には頭はすっかり混乱して、ごちゃごちゃになってしまいました。
- 体全体に満遍なく泡をつけました。さあ、このぐらいでいいだろう。

銭湯で習う日本語 (2)

- 「体をあろうて、はいらにゃあ！」
- 私は生きて下宿へ帰ることができました。
- 銭湯で話されている言葉は「あんたあ、なんぼうね」
- 「ああ、200円です。」
- 「のう」は「のうみそ」、「にゃあ」は猫の鳴き声で、
- 「じゃけん」は「じゃんけん」のように聞こえました。
- 「馬が合うのう」

銭湯で習う日本語 (3)

- 一つの発見 (①大体人々がほとんど私の顔を見ないこと、
② 「はい」という言葉を使わないということでした。)
- 結論：
- ① 仕事や生活、また、国籍が違っても、そこではみんな同じ一人の人間。
- 普段の言葉で語り会うことができる。
- 心の洋服を脱ぐことを教えてくれた。

今後の課題

- 大阪大学とわが大学との交流の形態：① 学生の交流（春季休業利用、インドネシアに滞在し当地の学生との交流、体験入学などの活動、ホームステイ）、② 教員の交流（共同研究、教材開発、カリキュラム開発などのトピック、大阪大学の教員が一定期間本学に訪問し、チームワークの形式で当地の教員と一緒に同じ科目を担当し授業を行うなど）
- これからの課題としては日本語とインドネシア語との対照研究をもっと増やすことができればと思います。

以上

- 以上で私の報告は終わりです。少しでも皆さんの参考になれば幸いです。
- ご静聴ありがとうございました。

過去三年間の日本語教育学科卒業生の進路

No.	就職類	2007年 (47 名)	2008年 (73 名)	2009年 (78 名)
1	高等学校の日本語の教師	1 2	2 1	1 5
2	大学の日本語の教師	5	8	1 3
3	民間学校の日本語教師	8	1 1	4
4	日本合弁会社	1 3	1 5	2 0
5	学校以外政府の教育機関	3	3	0
6	その他	3	2	0
7	不明	3	1 3	2 6
	合計	4 7	7 3	7 8